

## 「ほほえみの地域づくり」

### の泣き笑い

～青い森のほほえみプロデュース活動奮闘記～

# ほほえみ講習の 広がり と 継続の秘訣 第7回

山本 菜穂子

初年度である平成19年の11月から始まった「ほほえみプロデューサー講習会」。しばらくは、県職員向けや県内40市町村の公民館を会場にして地域の方に呼びかけた講習など、県が事業として計画したスケジュールに則って実施していくことにしていました。

前回も書いたとおり、そうしながら、徐々に力をつけ、人前に立つことに慣れていこうと思っていました。

そして同時に当時「ほほえみ来て来て講習会」と名付けていた、依頼を受けて実施する講習会についても広報していました。平成20年1月頃から、徐々にその講習依頼が増え始めます。ラジオやテレビ、広報誌

などの宣伝効果も出始めていましたし、なにより大きかったのは講習に参加した人からの口コミでした。



この「青い森のほほえみプロデュース事業」の所管は「こどもみらい課」。児童福祉を担当している部署で

す。でも、この事業の対象者は、児童福祉の関係者だけでなく、全ての県民であるということは、事業企画段階から企画や財政の担当者にも説明した上で承認を得ていましたから、「高齢者の介護施設職員対象」「障がい者の生活支援施設職員対象」「病院看護師対象」「商工会やサービス業関係の職員研修」「一般企業のメンタルヘルス関係」など多岐にわたった依頼についても、積極的に引き受けることができました。それは、当初私たちが意図していた子育て支援の枠組みを超えて、高齢者や障がい者、そこで共に暮らす家族の福祉であり、自殺予防であり、健康増進であり、それぞれの受講者がそれぞれ自分たちに必要なものをいわば勝手に(?)つかんで行き、活用してくれる講習として自由度高く発展していった様に思います。

結果としては、上のグラフの様な増加を続け、平成20年度の秋頃には、1日に5本の講習会をこなす様な売れっ子(?)状態にもなりました。

そんなことになるとはわかっていませんでしたから、私としたら、とにかくまずは事業終了予定年度である平成20年度末まで、仲間が、細くてもいいから継続して活動してくれることを目指していました。

継続するためには、誰か一人だけに負担がかかるような取組でないように、そして楽しいと思える取組であることが大事であると、これも団さんから何度となく聞かされて血肉

になっていたことばです。

楽しいと感じられる取組であること。その状態をつくることを心がけてきたつもりです。その視点で振り返ってみると、皆それぞれが楽しんでいたことが思い起こされます。一番楽しんでいたのは多分、私、かな。

## <私の楽しみ>

そう考えて振り返ると、私自身は基本的に仕事を楽しまたいと考えるタイプなのかもしれません。ほほえみを始めるずっと前、弘前の児童相談所に勤務していた頃、当時の所長に「仕事なんて苦しいものだからこそ給料を払っているんだ。そんなに楽しいなら、給料ださずに、金を払わせるぞ。」と言われたことがあります。何の仕事だったかな～。きっと関わっている子どもが嬉しくなるようなことを言ってくれたとか、イベントが滞りなく終わったとか、その程度のことだったのでしょうが。

ほほえみも最初はとても産みの苦しみがたくさんありましたが、ほほえみプロデューサー講習会の実施計画が立ち、あとは次々とそれらを実施していくしかないという段階になった頃から、私はこの仕事がとても楽しくなっていました。

講習自体もそうなのですが、このころから私には別な楽しみもありました。

### 1 ホームページの作成

基本的におばさんですから、ITに強いわけではありません。でも、仕事が絡むといろいろとできる様になるのですよね～不思議と。

脱線しますが、これにも健康福祉政策課の頃培った素地がいろいろとあって。ジェノグラム面接をしている場面を撮影してその画像を編集して5分程度の映像資料を作成したり、健康づくりの一環として、インターネット上にウォーキングマップをつくり、ウォーキングの距離を入力すると次々県内の観光地の美しい写真を開くことができるようなサイトを管理するとか。(前号から連載開始の電腦の浅田さんに言わせるときつとたいしたことがないのでしょうが) かつてそんなことをやれたことがあるということがちょっとした自信になっていて、ほほえみのHPも自分でつくって県のHPの中にアップしてもらいました。(その後、県のHP全体を同じスタイルで統一することになり、今は見ることはできませんが、前のHP良かったよね、と時々笑いの仲間が言ってくれるんですよ～。お世辞か?) これもなかなか楽しくて。様々なデザインのほほえみの太陽くんを登場させて、それをクリックすると各種講習会・大会の案内や報告を見られたり、その他ちょっと笑える親子の会話などを「ちょっとほほえみたい人へ」として掲載したり。楽しくて、家で明け方までホームページの修正をしていたことも何度となくあり。

こつこつとHPの修正作業をして

いること自体も楽しかったのですが、HPを見た仲間たちが喜んでくれたり、そしてなにより、HPをつくってから、外からの応援メッセージが増えたのです。県や国の枠を超えて!

平成19年12月には、なんとドイツ在住の日本人の方から応援メールが届いたんですよ。「暗いニュースが多く、たくさんの方が不安になったり疲れている中、このような素敵な計画を立てられたこと、本当にすばらしいと思います。人を笑わせて幸せにして、それが子ども達や周りの人に伝わって・・・こんな素敵な連鎖が起こることが想像できます。このまま、青森県から日本全国に、それからいつかは世界に向けてこの計画が広がっていけばいいなと思っています。成功を心より祈っています。」と。愛媛県や高知県から、こちらで講習会を行う計画はないのですか、と問い合わせが来たり。ドイツと言えば、写真誌FOCUSから取材を受けたこともありましたよ。HPの効果って大きいんだなと思いました。

反響をもらうと、それを仲間たちに伝える。そうすると、活動を継続するためのモチベーションを高めていくことができる、そう感じていました。

## 2 ほほえみだよりの発行

そういう反響をコアや笑いの仲間と共有するための手段の一つとなったのが「ほほえみだより」です。

4泊5日や、3日間の研修を共に

した仲間たちをつなぐものが欲しいという、仲間たちからの要望もあり、そして、ほほえみ隊としても、これから「ほほえみプロデューサー講習会」をともに実施していく仲間をつなぐでおくものとして、何かが欲しいと思っていました。そこで、要望に応じて、平成19年12月から約2か月に1回のペースでほほえみだよりを作成し、コアと笑いの皆さんに郵送することにしました。(メール送信でなく、郵送!です。青森県だからなのかわかりませんが、40~70台の年齢の方々とつながっていきたくと思ったときに、メールに書類を添付してやりとりができるという状態はちょっと難しかったです。これを機に、パソコンを使いこなせるようになってもらえばいいのに、という団さんからのアドバイスもあったものの、これは、なかなか面倒でした。どんな手段がどんな人とつながるときに有効か、その手段を扱うための技術の問題と同時に、その方法を使うことに伴う経費や労力など、そこも取組を継続するときの大切な検討ポイントだと感じています。)A3裏表(A44枚分)くらいです。協会を立ち上げるまで、これは私が一人で楽しんでいました。すみません。

誕生したほほえみプロデューサーの人数をお知らせし、次の講習会の案内を入れ協力を呼びかけ、講習会会場での様子や参加者からの感想、先程の様な応援メッセージの情報共有、新聞、広報誌への掲載情報や、

県の広報番組の放送予定などなど。

この「ほほえみだより」には、コアや笑いの養成講習会終了後、「ほほえみプロデューサー講習会」には参加できない人たちへの、「それでも『仲間』だと思っていますよ」というメッセージを込めていました。

来られない人を責めたり、参加を強要しない。でも、いつでもまた来られる様になったら再会を喜び合える仲間であってほしい。そして、講習会を手伝えなくても、応援してくれていることや、周囲の方にはほほえんでくれること、誰かにこの取組を紹介してくれること、それらも全てその人なりのほほえみプロデュースであると伝えたかったのです。その、ゆるくてあたたかい枠組みでつながっていたいとずっと思っているし、それが長続きするコツの一つであると思えるのです。

## <コアと笑いの楽しみ>

ほほえみプロデューサー講習会が始まると、コアと笑いの仲間達は、活動区分である県内6つの圏域毎にまとまりを作り始め、徐々にそれぞれで進化が始まりました。

県の事業が終了した後の最終の目標は、県から離れても、何らかの形で、養成された皆さんが活動を続けていけるようになることであり、それには、県がそのための枠組みを整えることの一方で、養成された皆さん

自身が、自立して活動できる必要がありました。

各地域でまとまり、独自の工夫をする意欲を持ってくださることは願っていませんでした。もちろん、ほほえみの7か条を伝えるという基本的な部分では、どの地域でも同じ内容を確保することが大前提なのですが。上手にそのバランスをとってもらうことが大事で、大枠の質は、ほほえみ隊同席の講習を繰り返すことでこちらで管理し、乗り切ってもらえたかなと思っています。

各圏域で皆さんがより楽しみつつ工夫しながら活動できる様に、他の圏域での活動の様子などを「ほほえみだより」等によりお知らせしてきました。どんな風にみんなが独自に楽しんでくれていたか、平成20年12月号のほほえみだよりvol.5の一部を転載してみます。

\*\*\*\*\*

#### ☆最近の「ほほえみプロデューサー講習会」の様子です☆

私、最近の各地の講習会に出ていて、実はとても「素敵だな～」、時に「うらやましいな～」とさえ感じていることがあります。

それは、「地元の間が、地元を温かい地域にしたいくて、地元の人に呼びかけをするんだ！」そんな雰囲気講習会が各地でできてきて、そんな熱い想いを受けて、会場に集まっている皆さんが、とても温かく、地域

のほほえみづくりを自分のこととしてしっかり受けとめている様子を目にすることです。

私も、どこの地域のどこの会場に行っても、そんな雰囲気を出しながら講習会をできたらいいなと思うのです。だって、どこもかしこも、私たちの大事な青森県ですから。(今更ながらに、津軽弁が話せないことが残念な山本です。だって、嫁いだ当初、夫が、そんな下手な津軽弁は聞いていて気持ち悪いからやめてくれと言ったから・・・ブツブツ( ^\_ ^ ;))

ということで、各地域でどんなことが繰り広げられているか、ご紹介しますね。順不同(是非、次回は、各地の皆さんからのレポートがあったら嬉しいな。載せますよ。)

#### <西北五地区>

“PNPの前には、衣装替え。赤いジャージのなりきり中学生の登場。”一生懸命で、真実みのある迫力の寸劇がとてもほほえましいのがこの地区です。スタッフが楽しめていると、会場も明るく楽しい雰囲気のうち解けてくるな～ということをととも感じます。

そして、自分の人脈を活用して講習会を誘致してくれることの多い地区ですね。地元のために地元の間ががんばるんだ、の元祖かな。

#### <東青地区>

講習会でのスタッフの年齢層がもっとも厚いのが、この地区かな～という気がします。

はつらつと寸劇や説明をこなし楽しむ先輩方に、元気をもらうことがたくさんありますし、世代を超えた関係が楽しいです。10歳、20歳離れた年齢の仲間同士、「こんなことがなければ出会わなかったよね～」との声。

また、この地区では12月15日に、ワンコインミーティングとして、青森地区中心としたコアと笑いの皆さんが自主的にお茶会を開催していました。そこでは、活動を通して感じていることをお互いに分かち合ったり、今後の活動についての意見交換もなされていたと聞いています。コアや笑いの人数が多いからこそその大変さもあると思いますが、チームワークはなかなか良いですよ～。

#### <中南地区>

弘前地区は、最近ちょっと人手不足気味かも。でも、それもこの事業を広く見たときには、まんざら悪いことでもなくて。(でも、こう考えてみようよ!?) だって「笑いプロデューサーになったら、仕事が見つかったの。」「頼りにされて、仕事が忙しくなってるの。」という声もいくつも。どう思います?すごいことだと思いませんか。皆さん、無理のない形で、細くても長く活動していただけたらいいなと思っています。どうぞ、どなたでも、空いている時には積極的にスタッフにエントリーを。

#### <下北地区>

他地区よりコアと笑いの人数が少ない分、まとまりの良いのがこの地区かな～。

そして地元を自分たちの手で温かいものにしたいという意欲も高く。先日は、スタッフ不足のため断ろうとした講習会を、「引き受ける」といって少人数のチームで練習を重ね、やり切ってしまいましたよね。熱い気持ちと底力を感じました。

#### <三八地区>

自ら市町村役場や関係機関に動いて講習会のPRしてくれる、地元想いの、一生懸命な仲間がいる地区です。また、「久しぶりに来たよ～」「初めてだけどいいかな～」という方も結構いて、それもこの地区の素敵どころだな～と思います。

ちょっとご無沙汰の皆さまも、どうぞ、お時間のある時に気軽に顔を出してください。温かい仲間が待っています。

#### <上十三地区>

野辺地、三沢、十和田・・・それぞれの地域に地元活動隊ができつつある人材豊富な地区です。それぞれに、講習会以外の時に仲間が集まり、食事(お酒?)をしながら今後の活動についてまじめに話し合いつつ楽しい時を過ごすというようなことが始まっていると聞いています。「地元の人間が地元を温かい地域にしたいくて、この活動をするんだ」そんなことを講習会の場面で積極的に話しているのもこの地区が初めてかな。そのことへの参加者の反応はとてもあたたかいですよね。

そんな各地域の発展を見ていて、すごくすてきなことが起きつつある

んじゃないかなと、ドキドキしたりします。

地元でまとまる、それはこの取り組みを始めたときに望ましい形として描いたものです。それが今、少しずつ現実に動き始めている。とても素敵なことだと思っています。

そして、それが今後進んだ時に、「別の地区の人は必要ない」とか、「いつもの仲間だけでやりたい」とか、そんな「排他的」な感じにならずに発展したらいいなと思います。

出て行くものはしつこく追わないけれど、「気にかけているよ」のサインは送り、そして来るものは決して拒まず。そんなゆるいまとまりと基本的なあたたかさが、このほほえみの活動の場を居心地の良いものにしていくと思っています。それが、受講者を惹きつける魅力になっていくと思っています。

他の地区にも、どうぞ機会があれば参加してみてください。(冬場は厳しいですけどね。)

\*\*\*\*\*

各圏域での楽しい様子が伝わりましたでしょうか。講習会活動の中での工夫もさることながら、皆さん、この取組に参加することによって得た人とのつながりをとても大事に楽しみ始めていました。

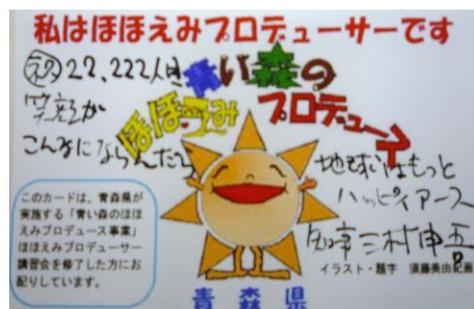
参加していて楽しいと感じられること、その状態を皆さんが自ら創り上げてくれるようになっていました。

## <知事の楽しみ>

この取組は、知事が「やっているうちに何かが見えてくる気がするよ。」と経過を大事にすることを示唆して実施を承認してくれたという話しは最初に書きましたよね。経過を大事にする、それを知事は形にして示してくれました。

ほほえみプロデューサーが1,000人目を迎えた時、ほほえみ隊の雑談で、「受講者全員に渡しているこのほほえみカードに、知事のサインが入ったら、1,000人目の人に記念として渡せるのにね～」と話しているのを、たまたま次長が聞いていて、「よし！」とカードを10枚持って秘書課へ。そして、知事が快諾！1,000人単位、1万人目まで10枚の知事のサイン入りカードをつくってくれたのです。

コメントは様々です。5,000人目の人には「あなたの素敵な笑顔が青森県の宝です。」10,000人目の人には「笑顔を積み重ねてほほ



えみ力1万倍！！」とか、一つ一つ考えてくれているのがよくわかるのです。

そして、「なんだ、メチャクチャ楽

しんでいるんだ」と思ったのが、2万人を超えて更にカードを依頼したときです。1,000人単位ではなくて、22,222人目あてに「こんなに笑顔がならんだら地球はもっとハッピーアース」と。ニコニコニコニコと2が5つも並んだということなんでしょね〜。そして、23,456人目あてに「とっても上昇笑顔ナンバー！！感謝」と。ね〜しっかり楽しんでいるとしか言いようがない。

ほほえみ隊としては、知事の次のカードが何人目に当てたものになっているかを確認しながら、次はすぐだよ、その次まではだいぶ間が空くな〜とか。一緒に楽しませてもらいました。

でも、それで気付いたんです。楽しんでくれている＝やりたくてやっている。そうとわかると、相手の能動性が伝わってきて、プラスのエネルギーをもらえるんですね。「仕事で仕方なくやっている」のと、「やりたくてやっている」のと、同じことをやったとしても伝わり方って全然違うんですね。

もしかして、住民との協働がうまくいかない時って、そんなことが影響していないのでしょうか。

楽しさって笑いと同じで、伝染するのかもしれない。

さあ、みんなが楽しいと感じながら、そして、周りにその楽しさを伝染させながらの取組ができる様にな

ってきました。

県としてのこの事業のシメは、県からの独立です。

次回そのことに触れて、この連載もシメようかな〜と今は思っているのですが。